城山小学校 第８９４回 平和祈念式 令和８年２月９日

１年生による発表

【かよこ桜について】



かよこ桜は、小学校の先生になりたかった「**はやしかよこさん**」のお母さんが、かよこさんのことを思って植えた桜の木です。

１９４５年、城山国民学校は兵器を作るための工場でした。かよこさんは、そこに働きに出ていました。８月９日の朝、「今日は行きたくないの。」と行きたがらないかよこさんでしたが、「もうすぐ誕生日だから、その日に休んだ方がいいよ。」とお母さんに言われ、仕方なく学校へ向かいました。しかし、その日の１１時２分、一発の原子爆弾が長崎の空で爆発しました。かよこさんのお母さんは、家に帰ってこないかよこさんのことを、何日も探しました。亡くなったかよこさんが見つかったのは、原爆が落とされてから２２日後のことでした。

月日が流れ、長崎には平和が戻ってきました。しかし、かよこさんのお母さんは、亡くなったかよこさんのことを忘れることができません。小学校の先生になることが夢だったかよこさんを思って、城山小学校の校庭に桜の苗木を植えました。かよこさんの好きだったドーナツをもって、何度もお参りに行きました。その桜の木は、今では大きく育ち、城山小学校の子供たちのことを見守ってくれています。

しかし、年をとったかよこ桜は、台風や病気で弱ってしまいました。それでも、かよこさんやお母さんの思いを忘れず、「目から消え去るものは、心からも消え去る」という思いをむねに、薬をぬったり、支柱を立てたりして、大切に守られています。今では、学校のあちこちに、かよこ桜二世の木が植えられ、少しずつ大きく育っています。

【出典　1988.12「嘉代子ざくら」　作：山本典人　絵：井口文秀　（編集：歴史紙芝居研究会　発行：汐文社）】

嘉代子さんを見送る母の絵	嘉代子さんを探す母の絵	桜の苗木にお参りをする母の絵





私たち城山小学校の子供たちは、この思いを大切にしながら、平和を守っていかなくてはいけません。

「平和は城山から」の思いをもって、これからも平和をつないでいきましょう。

